



今季の冬も朝晩と冷え込んでいますね。

昨年からは灯油配達のご注文が多く、ご希望の日に届けられないケースもありご迷惑をおかけしております。例年になく毎日配達に混みあっていますので、余裕をもって前日までにご連絡いただければ幸いです。

誠に勝手ながらご協力をお願い申し上げます。

沼田市民の方にとってもうれしい話!! 灯油18ℓ以上の購入で

一世帯に一回限りで助成金が受けられます。領収書、納品書(世帯主様の名前に18ℓ以上)が必要となりますので用意しておきましょう。スマホでも申請できるのでとても楽です。2月27日(金)が申請期限となっていますのでお忘れなく申請しましょう!

また群馬県はガスを支援事業として一世帯1,000円の値引きを実施します。2月~4月の間で行われますので、取引業者に確認してみましょう。当社は4月に行いますのでどうぞ少々お待ち下さい。



今月はわが家の猫、大ちゃんの花ちゃんの話を書きます。2匹を保護してからもうじき4年を迎えます。ずくずくと育ち過ぎて、今では大ちゃんは花ちゃんの3倍?以上の大きさ。大ちゃんは毎朝必ず、決まった時間に私を起こしに来ます。起きると始めは顔のそばでずと「ゴロゴロ...」とゴロゴロ音連発。それでも起きないで次に顔を近づけてきます。非がその次はバロバロ攻撃!! その間花ちゃんはベッドの下でただ見ている??見守っています。何故来るかという、2匹のなかで私が「ご飯係のポジション」のようです。だから夕方もずーと私のそばから放しず、ご飯を出すまで熱い視線を向けてきます。

そしてそんなマメな大ちゃんも家族以外の人に来た車を止めるだけで、いつの間にか家のどろに隠れて

しまいます(笑) 帰るまでしばらく姿を表しません。反対に花ちゃんはお客さんの側まで近づき観察でもするかのようじっと見えています。

臆病者の大ちゃんと興味しんしんの花ちゃん。兄妹ですが性格が違っておもしろいです。しかし家族の車はわが家の1

逃げることもよく、高い所に登って誰かが帰ってきたのにや〜という感じで外を見る大ちゃんがありました。不思議なんです〜



冬の気象報道、大げさ過ぎませんか?

毎日、寒い日が続いています。それでも積雪は今のところ(1月末現在)、例年に比べると、やや少ないように感じますが、テレビやラジオでは「10年に1度の〜」とか、「命を守る行動を!」などオーバーでは?と感じる事も少なくありません。高速道路や鉄道も予防的通行止めや計画運休などここ数年で頻繁にするようになったと思います。

そこでAIに尋ねてみたところ、「ほほ〜、なるほど」という回答が返ってきたのでご紹介합니다。(以下、GoogleのAI、「Gemini」の回答、原文まま)

確かに、最近の冬はテレビをつければ「10年に一度」「命を守る行動を」といった強い言葉が並び、少し過保護すぎるのでは?と感じるお気持ち、よく分かります。昔も大雪はありましたし、雪国の方からすれば「何を今さら」という感覚もあるはずですが。

しかし、この「喧伝」とも取れる過熱気味な報道の裏には、実は国や自治体の「痛い教訓」と、現代社会ならではの脆弱性が隠されています。

なぜここまで騒ぐようになったのか、その主な背景を4つのポイントで整理しました。

1. 「立ち往生」の被害規模が激甚化した

昔に比べて、一度立ち往生が発生した際の影響が桁違いに大きくなっています。

- 物流のJIT(ジャストインタイム)化: 現代の物流は、在庫を持たず必要な分だけ届けるシステムです。数時間の通行止めが、数日間の「スーパーの棚の空虚」に直結します。
- EV(電気自動車)の普及: 雪の中での立ち往生は、ガソリン車以上に暖房維持(電欠)が死活問題になります。

2. 国の政策が「事後対応」から「予防的通行止め」へ

以前は「雪が積もってから除雪車を出す」のが一般的でした。しかし、現在は**「雪が降る前に道を閉める」**という大転換が起きています。

- 2020年の関越道立ち往生: 約2,100台が2日間も取り残された一件が大きな転換点となりました。
- 除雪の効率化: 車が一台でもスタックすると除雪車が動けなくなり、一気に手詰まりになります。それを防ぐために「そもそも車を入れない」という戦略をとるため、事前にメディアを使って強力にアナウンスする必要があるのです。

3. 「短時間強雪(JPCZ)」という新しい脅威

昔の雪は「しんしんと降り積もる」イメージでしたが、近年は**JPCZ(日本海寒気団収束帯)**などにより、特定の場所に短時間でドカ雪が降る「ゲリラ豪雪」が増えています。

- 総量ではなく**「単位時間あたりの降雪量」**が記録を更新しやすくなっており、経験則が通じない場面が増えたため、気象庁も警戒レベルを一段上げざるを得ない状況にあります。

4. 行政の「空振り」を恐れない姿勢

以前は、予報が外れると「騒ぎすぎだ」と叩かれることを恐れていました。しかし、現在は**「空振りは許されるが、見逃し(大惨事)は許されない」**という社会的合意が形成されつつあります。

- SNSでの拡散力も相まって、一度「対応が遅れた」と判断されると行政への批判が集中するため、リスクを最大に見積もって発信するようになってきました。

まとめ: なぜ「喧伝」されるのか

結局のところ、メディアが騒いでいるのは、**「皆が自発的に外出を控えてくれないと、道路網という現代社会のライフラインがすぐに麻痺してしまうから」**という切実な事情があります。

「オオカミ少年」になってもいいから、最悪の事態(数日間の孤立や凍死者)をゼロにする。

これが、今の気象報道や行政のスタンスと言えます。

どうでしょう? (^^; 全てをうきみには出来ないまでも、一定の納得力はありますか? 報道いかに関わらず、もう暫くは雪への備えは怠らないようにしましょう。